

第46回(2023年度)全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2024/3/30】

この試合のプレー集計

B決勝

カワサキSC

4

2	—	5
0	—	3
1	—	4
1	—	2

14

大垣市水球クラブ

PSO

高橋 大

審判:

縄井 裕平

カワサキSC	17	SH数	23	大垣市水球クラブ
	1	速攻数	7	
	8	ST・SB	15	
	2	SH・P誘発アシスト	12	
	30%	GK阻止率	33%	
	7	EX反則数	3	

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
カワサキSC	119	62	30	34	33	51	6	21	52	40.2%

(6試合計)

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
大垣市水球クラブ	116	60	22	29	34	62	21	14	32	50.8%

(5試合計)

【試合の流れ】

予選トーナメント戦の初戦で対戦した両チーム。その時は、大垣15-9カワサキで大垣が勝利したが、その敗戦から戦い方を軌道修正したカワサキ。どこまで差を詰めた決勝戦となるか。大垣は暮れの桃太郎カップでも見せた中盤プレスディフェンス、安定したGK守備を軸にしており、カワサキの攻撃力をもってしてもその突破は容易ではないことから、序盤は人数をかけない攻撃で粘り(例えばカワサキ④武田⑧岡田の1年生コンビを最前線で動かし、他の4人は大垣攻撃に備えるような陣形)、低得点勝負に持ち込めば勝機が生まれるかもしれない。

【1P】

大垣のセンターボールからの攻撃は実を結ばなかったが、直後のカワサキ攻撃時に中盤プレスから大垣エース⑤野村がボール奪取。そこで退水を誘発して、自身が決めて大垣が先制。最初のカワサキ攻撃の場面、マイボールで全員が前線に向かい、その過程の中盤でボールを奪われてからの後手に回る守備での失点。大垣側が狙った通りのパターンだった。カワサキが少人数での攻撃意識があれば、マイボール場面でも前線へのロングフィード・パスでの展開となるわけで、大垣が得意とする中盤プレスをかわせる可能性が広がる。ロングパス攻撃の成功確率は低くなるが、たとえボールを大垣に奪われても、守備側に人数を残しているの、慌てずにディフェンスして耐えることができる。そうした意識は選手たちやベンチにも見えない雰囲気の中の最初の失点場面であった。このパターンでは大垣ペースが続く、第1ピリオドから点差を広げられかねない様相を呈していた。案の定、カワサキは大垣ディフェンスに競り負けてボールを奪われ、人数をかけた攻撃だけに戻りが遅れ、連続失点。大垣⑤野村がアウトマークでボール奪取を狙っているが、そこでカワサキが競り負けて劣勢に立たされた形。それでも④武田が左サイドからのドライブで退水を誘発して、点を返して第1ピリオド終了(カワサキ2-5大垣)。

【2P】

劣勢のカワサキには特段の変化もなく、大垣ペースが続く。大垣⑦加藤のペナルティ誘発(シュートは決まらず)、⑥臼井の連続得点や

⑤野村の右サイドからのドライブ攻撃で大垣が加点。一気に点差を広げて前半を折り返した(カワサキ2-8)。カワサキの攻撃は個々がバラバラでミスが目立ち、ディフェンスも当たるでもなく、ゾーンでもない中途半端な状態で、大垣に付け入るスペースやシュートコースを与えてしまい、完全な大垣ペース。1回戦の時よりも差が開いた感のある前半であった。

【3P】

カワサキは何とかセンター⑧岡田、ドライブ&センター攻撃の④武田で活路を見いだそうとするが、そのセンター攻撃も大垣GK①高橋が防いで⑤野村が前線でP誘発。大垣GK①高橋は右コーナー側に流れたボールを積極的に泳いで奪取。そのまま前線へフィードして得点につなげるなど随所に好プレーを連発。大垣攻勢の起点となっていて、このピリオドもペースを維持し、カワサキ3-12大垣と9点差をつけて最終ピリオドへ。

【4P】

カワサキ④武田がゴール前に攻め上がるが、GK①高橋が冷静に処理してボールを奪取。そこから③川合が退水を誘発して、⑥臼井が決めて10点差となった。前のピリオドでもゴールマウスから離れてボールを奪いに行くプレーで大垣の攻撃起点となっているGK①高橋の存在が遺憾なく発揮された展開。⑤野村がP誘発して自身4点目を決めて、大垣が14点目をマーク。大垣の中盤プレスに手を焼き、カワサキが迫力あるゴール前攻撃を封じられる形となったが、最後はカワサキが意地を見せて⑧岡田がセンターで決めてカワサキ4-14大垣で試合終了。大垣が優勝を飾った。